



窓辺をかえる、明日が変わる。

TOSO

株主・投資家のみなさまへ

第79期（2019年3月期）中間期のご報告
2018年4月1日～ 2018年9月30日

トーソー株式会社

（東証2部 証券コード：5956）



平素は格別のご支援ならびにご愛顧を賜り、誠にありがたく厚くお礼申し上げます。

当社グループは2018年9月30日をもって第79期(2019年3月期：2018年4月1日から2019年3月31日)の中間期を終了いたしましたので、ここに事業の概況と今後の諸施策につきましてご報告申し上げます。

今後とも株主の皆様の一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長 **大槻保人**

目次 CONTENTS

トップメッセージ	1
当中間期のセグメント別営業概況	3
特集	5
TOPICS	7
株主優待／株主配当	8
連結財務諸表(要旨)	9
会社概要／株式情報	10

トップメッセージ

第79期(2019年3月期) 中間期の事業概況と今後の展開

ポイント

- 国内住宅市場が停滞する中、若干の減収。
- 住宅以外の成長分野への取り組みや原価低減活動を継続推進も、原材料価格の上昇および物流コスト高騰等の影響を受け、各段階利益は減益。
- 安定配当を維持する基本方針に沿い、前期同様の中間配当を決定。
- 期末配当についても、1株5円を予定。

1

第79期(2019年3月期) 中間期の事業概況

当中間期(2018年4月1日～2018年9月30日)のわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に緩やかな回復基調にて推移しましたが、米中貿易摩擦の激化や原油高、米国の金利上昇等、世界経済の成長に影響を与えるリスクが高まるなど、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループ事業に関連の深い建設市場におきましては、新設住宅着工戸数は減少傾向だった持家で下げ止まりの動きが見られるものの、着工数全体では前年の水準を若干下回り、非住宅向けの建築着工床面積も減少するなど、厳しい状況が続きました。

このような環境の下、当社グループは「Vision2025」第1フェーズ(2016～2019年度)3期目として、引き続き主力の住宅分野の深耕を進め、非住宅市場や海外

市場等への営業活動を展開しました。成長戦略として取り組みを進める非住宅分野や海外事業、新規分野では引き続き販売が拡大しました。一方で、主力の住宅分野では新設住宅着工戸数が全体では前年同期を下回る水準で推移するなど、国内住宅市場の停滞による影響を受け、当中間期の売上高は前年同期を0.2%下回る10,722百万円となりました。

利益面では、資材ロスの低減等、原価低減活動や生産性の向上等への取り組みを進めましたが、原材料価格の上昇や物流コスト上昇により荷造運搬費が大幅に増加した影響が大きく、営業利益は84百万円(前年同期比72.7%減少)、経常利益は106百万円(前年同期比66.0%減少)、親会社株主に帰属する四半期純利益は50百万円(前年同期比73.3%減少)となりました。

売上高

10,722 百万円

営業利益

84 百万円

経常利益

106 百万円

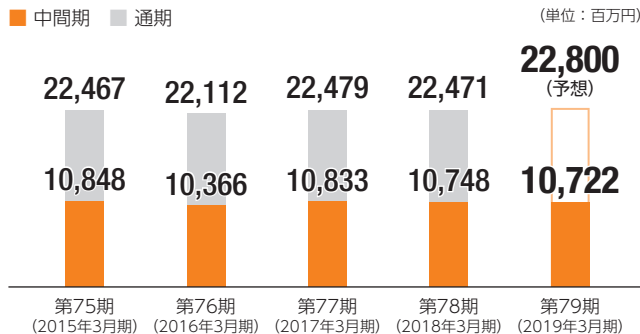
2 第79期（2019年3月期）の見通し

市場環境としましては、引き続き企業収益や雇用環境は緩やかな改善が続くことが見込まれるものの、国内住宅市場の停滞や物流コストの上昇等、当社グループを取り巻く事業環境は不透明な状況が続くと予想されます。

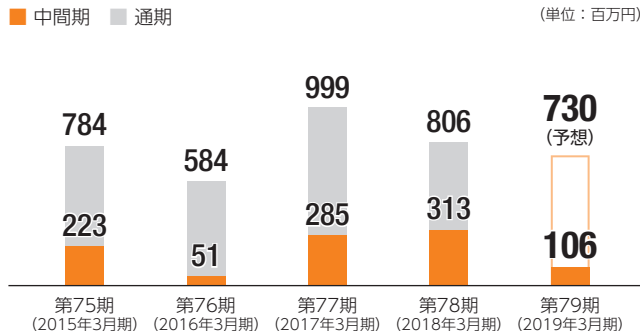
当社グループといたしましては、「Vision2025」の実現に向け、高付加価値製品の提案や高騰する物流コストへの対応等、新製品開発力の強化や環境変化への対応を進め、住宅市場の深耕および成長戦略分野（非住

宅分野、海外事業、新規分野）への取り組みを一層推進してまいります。また、製品のモデルチェンジや生産工程見直しを進め、高収益体質への転換と競争力強化に努めてまいります。通期の業績見通しにつきましては当初公表（平成30年5月11日発表）の通期連結業績予想通り、売上高22,800百万円、営業利益720百万円、経常利益730百万円、親会社株主に帰属する当期純利益470百万円を見込んでいます。

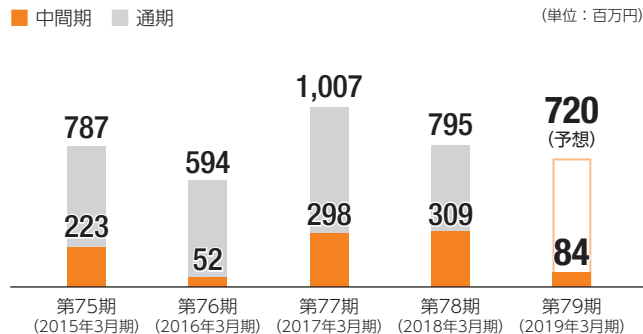
売上高



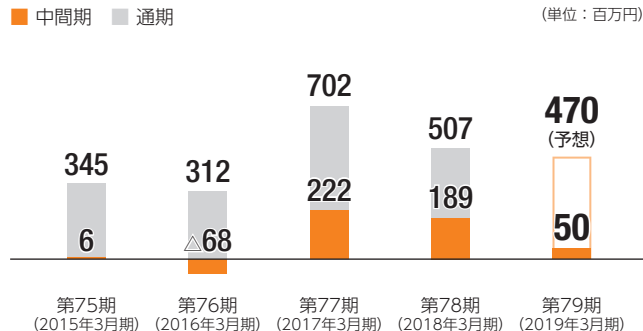
経常利益



営業利益



親会社株主に帰属する四半期純利益



3 当期の配当金について

中間配当につきましては、安定配当を維持する基本方針に沿って前期同様に1株につき5円とさせていただきます。期末配当につきましても同様に1株につき5円、年間10円を予定しております。当社グループでは、2016年4月より10年間の新しい経営ビジョンであります「Vision2025」をスタートさせております。その第1フェーズ（2016－2019年度）におきましては、高収益体質への転換と成長戦略の見直しを実行していくことで、多くの投資家の皆様に魅力を感じていただける企業になるよう努力してまいります。皆様からの一層のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

第79期（2019年3月期）配当について

中間配当金

5円

期末配当金

5円 (予定)

合計（年間）

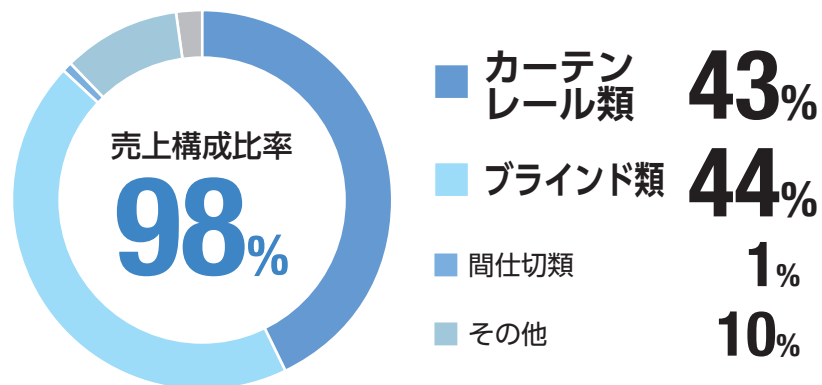
10円 (予定)



詳細な決算説明を動画で公開しています。是非ご覧ください。

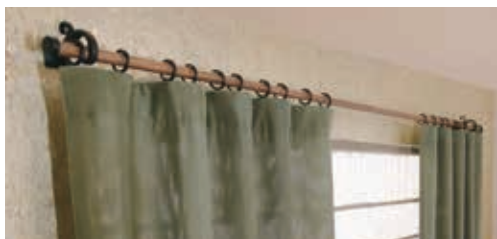
当中間期のセグメント別営業概況

室内装飾関連事業

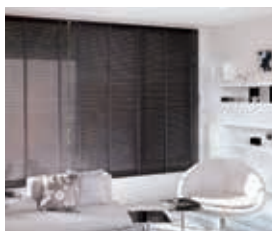


事業内容

国内シェアNo.1のカーテンレールを中心に、ブラインド、ロールスクリーン等の窓装飾品や室内間仕切類などを開発・製造・販売しています。



カーテンレール類（装飾性カーテンレール）



ブラインド類（アルミブラインド）



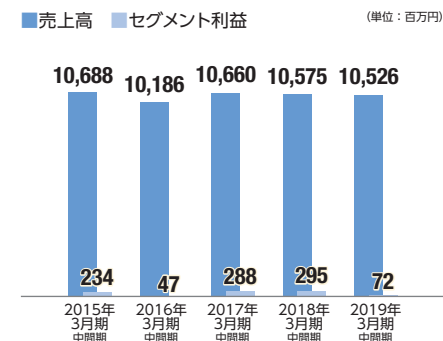
間仕切類（アコーデオンドア）

売上高

105.26 億 百万円

セグメント利益

72 百万円



当期の概況

室内装飾関連事業の業績に影響の大きい住宅市場は、低金利の住宅ローン継続等により住宅取得環境は良好でしたが、新設住宅着工戸数は前年同期を下回る水準で推移し、取り巻く経営環境は依然として厳しい状況が続いております。

こうした市場環境のなか、当社グループはカーテンレールやブラインド等の新製品を中心とした展示会を開催し、新製品の早期浸透を目指すとともに、リフォーム市場や非住宅市場、海外市場への販路拡大等の営業活動を展開しました。成長戦略分野である非住宅分野や海外事業で一定の成果が得られましたが、国内住宅市場の停滞の影響を受け、売上高は前年同期を若干下回りました。

製品面では、カーテンの吊元をスマートに演出するカーテンレール専用の天然木を使用した高級感あふれるバランス「ノイボックス」やカーテンの幅やボリュームに合わせて長さを変えることができる長さ調整機能付きタッセル「BWL75、BWC60」、メカのモデルチェンジとあわせて全体の約7割のブラインドの羽のラインナップが遮熱機能付きとなった横型アルミブラインド「ベネアル」などの新製品発売をおこないました。

セグメント利益は製品のモデルチェンジや生産工程見直し等、原価低減への取り組みを推進しましたが、国内住宅市場の停滞や原材料価格及び物流コストの上昇などにより、減益となりました。

カーテンレール
70年近くにわたり
国内シェア
No.1



家具に使われる木材の色から考えられた木製カーテンレール「ノルディ 25」



天然木を使用した高級感あふれるカーテンレール専用のバランス「ノイボックス」

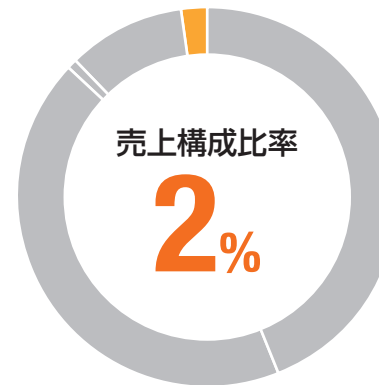


タッセルBWL75 タッセルBWC60
長さ調整可能なタッセル



より使いやすくメカを刷新した
横型アルミブラインド「ベネアル」

その他の事業



事業内容

ステッキを中心とした介護関連用品を開発、販売しております。そのほか、グループの物流事業請負業務をおこなっています。

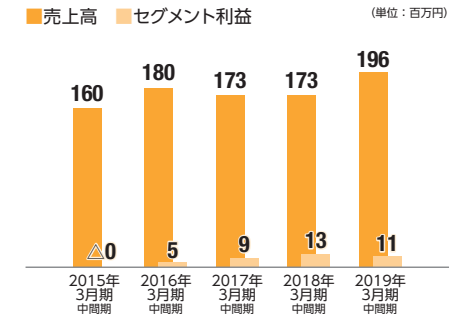


売上高

1億96百万円

セグメント
利益

11百万円



当期の概況

ステッキを中心とした介護関連用品の販売活動を強化し、引き続き新製品のプロモーションや営業体制の拡充による新規開拓活動を推進しました。しかしながら、物流コストの上昇や人件費増加等の影響を受けた結果、売上高は前年同期を上回りましたが、セグメント利益は前年同期を下回りました。

特集 株主の皆さまからの声

今年の株主総会やIRイベントで株主の皆さまからいただいたご質問やご意見の一部をご紹介します。

第78回定時株主総会

2018年6月27日（水）、第78回定時株主総会を品川プリンスホテルメインタワーにて開催しました。

今年は約120名の多くの株主の皆さまにお越しいただきました。当社とコミュニケーションを深める機会として、ぜひ当社株主総会へお越しください！



総会でいただいた株主の皆さまからのご質問とその回答の一部をご紹介します。

Q1 貴社の平均年齢や平均勤続年数からは社員の定着が読み取れますが、若者の早期離職を防ぐ取り組みや力を入れている点がありますか？

A1 当社は、若手社員の定着が図れていると思います。入社時の研修を充実させ、十分な研修を行った上で配属しています。配属後も仕事を通じて上司や先輩社員が指導・支援していくような体制をとっています。また、入社後半年や3年目には全員を集めて研修の機会を設けてフォローを行うとともに、若手同士の

コミュニケーションを充実させることにも力を入れています。直近では6月に若手社員を対象に工場見学やグループワーク等の研修を実施しています。当社は毎年十数名の新入社員を採用しており、平均年齢も徐々に若くなっていくと思います。

Q2 海外事業について、現状と将来の見通しを教えてください。

A2 海外事業については、アジアを中心にヨーロッパや北米などへの販売を行っています。現状

では売上高は全体の約3%です。アジアを中心に住宅需要は増加しており、発展する国が増えるにつれて需要が拡大してきています。住宅以外にもホテルやオフィスなどの需要獲得が着実に増えてきており、さらに取り組みを強化し、売上拡大を目指していきます。国内の市場が成熟していく中で、海外事業は成長戦略の1つに位置付けており、今後も注力していきたいと考えています。



第13回日経IR・投資フェア2018

2018年8月31日（金）、9月1日（土）の2日間、東京ビッグサイトにて開催された「第13回日経IR・投資フェア2018」へ出展しました。

2日間を通じて160名を超える方にブースにお越しいただき、事業内容や当社の強み、成長戦略などで説明させていただきました。様々な貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

IRイベントでいただいた株主の皆さまからのご質問とその回答の一部をご紹介します。

Q3 取り替えたくなるような独自性のあるカーテンレールを発売してほしい。

A3 ご意見ありがとうございます。住宅では、IoT家電やスマートスピーカー、見守りサービスなど、様々な製品やサービスが登場し、IoT化が進もうとしています。ニーズの変化に迅速に対応し、カーテンレールのパイオニアとして新たな価値提案を目指し、住生活環境の向上に貢献できるよう努力を続けていきます。

Q4 トーソーという社名をどこで見かけたことがあります。常磐道の高速道路沿いに看板がありますか？

A4 ご覧いただいてありがとうございます。当社国内基幹工場であるつくば工場が常磐道の谷和原インターチェンジ付近に位置しており、常磐道の特に下り線側からトーソーの看板がよく見えます。今年改装してきれいにリニューアルしています。



Q5 カーテンレールNo.1のグループで、なぜステッキを販売することになったの？

A5 当社グループ子会社のフジホーム株式会社でスタートさせた新規事業の1つでしたが、高齢化社会が進む中でトーソーグループ事業の柱の1つとして育成しています。カーテンレールNo.1だけでなく、ステッキでもNo.1を目指しています。ぜひ、応援お願いします。

5月

「TDYリモデルコレクション2018」に協賛企業として出展

TOTO株式会社、大建工業株式会社（DAIKEN）、YKK AP株式会社の3社が共同で開催する「TDYリモデルコレクション2018」に協賛企業として出展しました。今回のコンセプトは『十人十家くらしの想いをわたしらしく』。社会の変化とともにますます多様化するライフスタイルに応える10の展示テーマが設定され、会場内でテーマごとに各社の商品・技術・ワザを組み合わせ多彩に提案。当社は各テーマに合わせた装飾カーテンレールやプリーツスクリーン、ロールスクリーンを展示したほか、同会場内に単独ブースを出展。『快適な窓辺にさわやかな彩をそえるインテリアのご提案』をコンセプトとして、機能性とデザイン性に優れた様々な窓周り製品と、窓装飾の事例や機能性の比較例などを展示し、日々の生活をより豊かにする空間づくりを提案。



8月

DIY産業向け展示会「JAPAN DIY HOMECENTER SHOW 2018」に出展

国内外のDIY・ホームセンター関連商品を一堂に展示し、DIY産業の健全な振興・総合的発展を推進する展示会「JAPAN DIY HOMECENTER SHOW 2018」に出展しました。今年は、ホームセンター向けの売り場改革提案やDIYで人気のピックアップレールやウォールステッカー、ウォールフォトなどのウォールデコレーションの提案をおこないました。



5月

新製品展示会「ウインドウファッションフェア2018」を開催

インテリア業界関係者向けの展示会「ウインドウファッションフェア2018」を今年は全国18都市で開催しました。「ウインドウファッションフェア」は、製品を実際に見て触れていただき、素材感や操作感などを体感できる機会を増やすことを目的として毎年開催しており、今年で16回目となりました。

今年はインテリア製品との調和を意識して開発された新製品を中心に、「with Partners」と題し、ユーザー目線で各製品の使いやすさをアピール。次世代の新木製カーテンレールや長さが調整できる新タッセル、和紙調やシアードスクリーンを充実させたプリーツスクリーン、厳選されたカラーラインナップと使いやすく生まれ変わったアルミブラインドなどの新製品を中心に展示。その他、昨秋に東京で開催した当社主催イベント「with Curtains 2017」で好評を博した国内ファブリクスメーカーの特長を活かしたカーテンスタイルの再現展示をおこないました。また、展示会と同時に開催したインテリアセミナーでは、時代の先端を行くインテリア家具ショップ&メーカー「TIME&STYLE」のコントラクトデザインのプロフェッショナル2名を講師に招き、明日のインテリアコーディネートに活かせる「家具の基礎知識とインテリアトレンド」をわかりやすく解説しました。



8月

「日経IR・投資フェア2018」に出展

東京ビッグサイトにて開催された個人投資家向けIRイベント「日経IR・投資フェア2018」（主催：日本経済新聞社）に出展しました。当社は展示ブース内で事業内容の紹介や当社の強み、経営ビジョン「Vision2025」、中期経営計画進捗状況等の説明をおこないました。今後も当社の企業価値向上に向けた有意義な情報を発信できるようにIR活動をおこなってまいります。



株主優待制度のご案内／株主配当のお知らせ

Dividend Policy

株主優待

当社では、株主様の日頃のご支援にお応えするとともに、当社株式への投資魅力を高め、株主数の増加を図ることを目的に株主優待制度を設けています。

株主優待割当基準日 3月末日

ギフトカタログに記載された旬の食材や生活用品などの中から、お好みの品物を1点お選びいただけます。
また、環境保全活動の一環としてインドネシア共和国における植林活動への寄付も設けています。



※対象株主様：毎年3月末日現在の株主名簿に記載された1単元（100株）以上保有の株主様を対象といたします。
なお、2018年3月末日を割当基準日とする株主優待は、2018年9月末日をもってお申し込み受付を終了させていただいております。

株主配当

配当方針

当社は、上場企業として株主の皆様への利益還元は重要な責務であり、安定的な配当の継続を重視しつつ、業績および今後の設備投資計画などを勘案して利益配分をおこないたいと考えております。

今後とも収益力向上と財務体質の強化を図り、利益還元に努めてまいりますので、株主の皆様には一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

1株あたり配当金の推移

	第78期 (2018年3月期)	第79期 (2019年3月期)
中間配当金	5円	5円
期末配当金	5円	5円(予定)
合計(年間)	10円	10円(予定)

インドネシア共和国における植林活動へ630,000円を寄付

第71期（2011年3月期）より、株主優待制度に当社子会社の所在地であるインドネシア共和国における「植林活動への寄付」を設けております。

ご協力いただきました皆様には、厚く御礼申し上げます。
株主優待制度にお申し込みいただかなかった方々の優待相当額と合わせて、当期は630,000円を寄付させていただきました。

す。植林活動は2018年12月頃を予定しており、実施報告につきましては「第79期（2019年3月期）のご報告」にてお知らせいたします。

インドネシア共和国における植林活動実績
累計本数 11,800本（2018年3月末日現在）

※株主の皆様による寄付および当社の植林活動を含めた実績です。



連結財務諸表（要旨）

Consolidated Financial Statements

※連結財務諸表の数値は百万円以下を切り捨てて表示しています
(単位：百万円)

中間連結貸借対照表

POINT 1 資産の部 変動要因

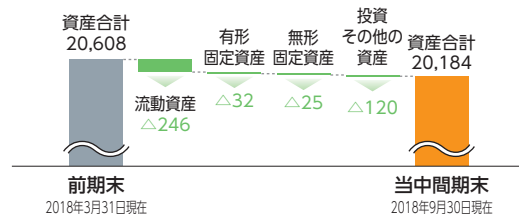
資産合計は前期末と比較して424百万円減少し、20,184百万円となりました。

●流動資産は246百万円減少しました。

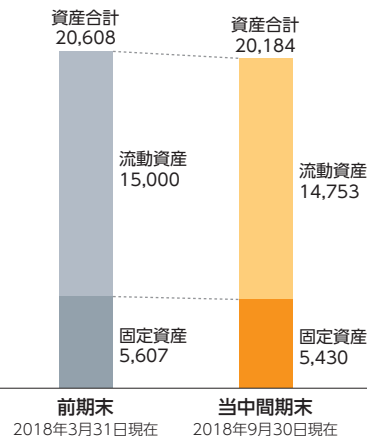
要因 現金及び預金などが増加したものの、受取手形及び売掛金などが減少

●固定資産は177百万円減少しました。

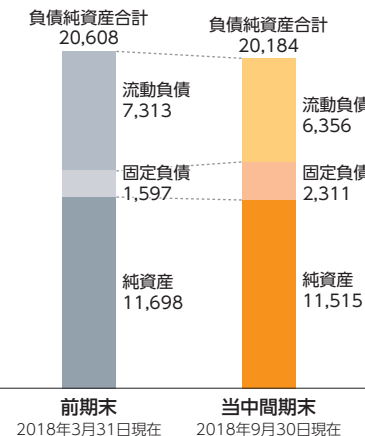
要因 減価償却による機械装置、工具器具備品及び繰延税金資産の減少などが影響



資産の部



負債・純資産の部



POINT 2 負債・純資産の部 変動要因

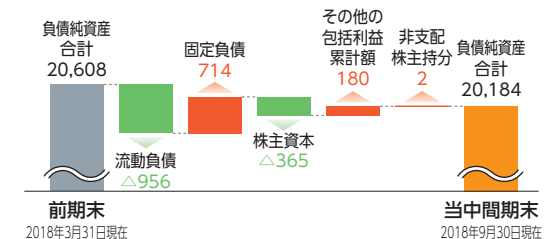
負債合計は前期末と比較して241百万円減少し、8,668百万円となりました。

要因 1年内返済予定の長期借入金の減少など

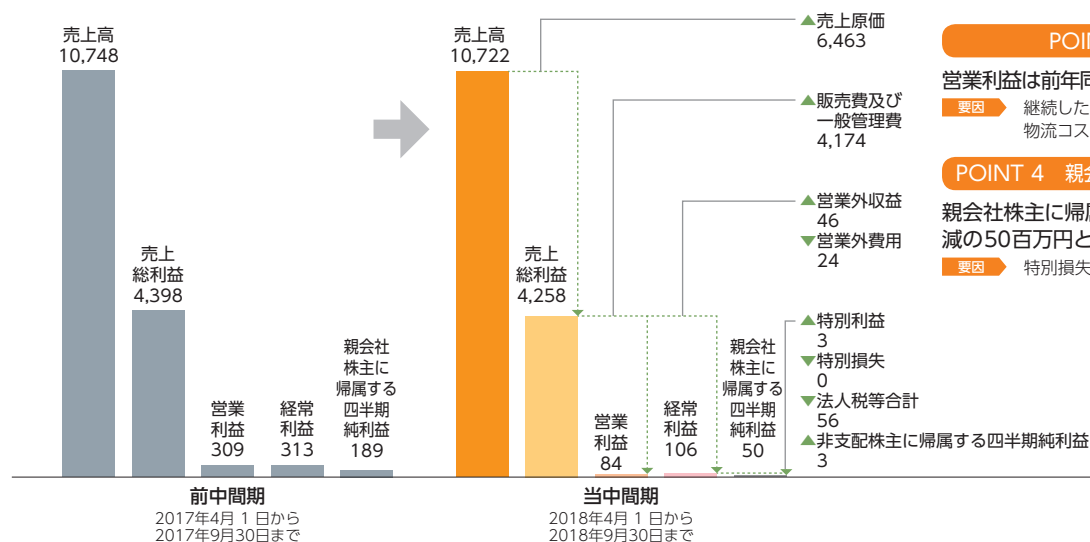
純資産合計は前期末と比較して182百万円減少し、11,515百万円となりました。

要因 自己株式を取得した影響など

自己資本比率は56.8%と引き続き健全な財務体質を維持しています。



中間連結損益計算書



POINT 3 営業利益 変動要因

営業利益は前年同期比72.7%減の84百万円となりました。

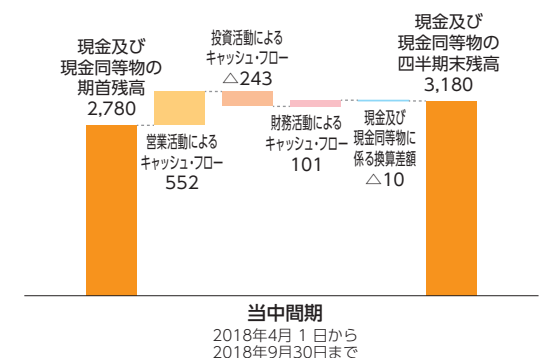
要因 継続した原価低減活動などに努めたものの、原材料価格や物流コストの上昇等が影響

POINT 4 親会社株主に帰属する四半期純利益 変動要因

親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比73.3%減の50百万円となりました。

要因 特別損失の減少など

中間連結キャッシュ・フロー計算書



詳細な情報は
こちら

TOSO IR資料

検索

会社概要 (2018年9月30日現在)

会 社 名 トーソー株式会社

英 文 社 名 TOSO CO.,LTD.

本 社 所 在 地 〒104-0033
東京都中央区新川一丁目4番9号

電 話 03(3552)1211(代)

設 立 1949年9月

資 本 金 11億7,000万円

主な事業内容 インテリア製品の開発、製造、販売
国土交通大臣許可内装仕上工事業(般-28)第16989号
ISO9001認証取得:JQA-QM5920製造本部/商品開発本部/品質保証部
ISO14001認証取得:JQA-EM2416つくば事業場/水海道事業場

従 業 員 数 連結953名 単体562名

【役 員】

《取締役》

代表取締役社長	大 槻 保 人 (オオツキ ヤスト)
取締役	前 川 圭 二 (マエカワ ケイジ)
取締役	結 束 正 (ケツク タダシ)
取締役	庄 中 基 秋 (ショウナカ モトアキ)
取締役	渡 辺 文 生 (ワタナベ フミオ)
取締役	林 淳 之 (ハヤシ アツユキ)
取締役	久保田 英 司 (クボタ エイジ)
取締役(監査等委員)	森 兼 康 博 (モリカネ ヤスヒロ)
社外取締役(監査等委員)	久 保 英 幸 (クボ ヒデユキ)
社外取締役(監査等委員)	江 角 英 樹 (エスミ ヒデキ)

《執行役員》

執行役員	本 多 敏 光 (ホンダ トシミツ)
執行役員	堀 住 浩 一 (ホリズム ヒロイチ)
執行役員	八重島 真 人 (ヤエシマ マコト)
執行役員	栗 山 忠 久 (クリヤマ タダヒサ)
執行役員	伊 藤 健 一 (イトウ ケンイチ)

【事業拠点一覧】

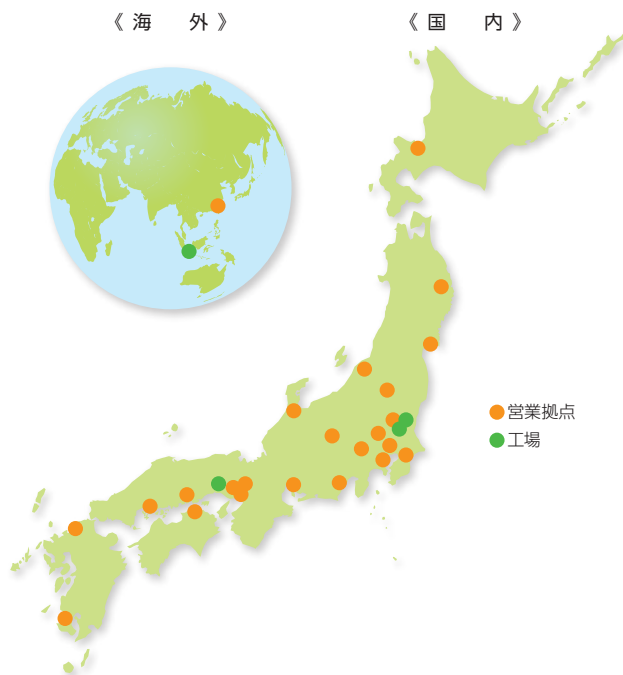
営業拠点 札幌支店、仙台支店、さいたま支店、
東京支店、横浜支店、名古屋支店、大阪支店、
広島支店、福岡支店
営業所14カ所

国内工場 つくば工場(茨城県)、水海道工場(茨城県)、
兵庫工場(兵庫県)

物流拠点 流通センター(茨城県)、
流通センター(兵庫県)、札幌配送センター、
福岡配送センター

ショールーム トーソープラザ
(東京ショールーム、大阪ショールーム)

連結子会社 サイレントグリス株式会社
トーソーサービス株式会社
フジホーム株式会社
トーソー流通サービス株式会社
P.T.トーソー・インダストリー・インドネシア
東装窗飾(上海)有限公司



株式情報 (2018年9月30日現在)

発行可能株式総数 30,000,000株
発行済株式の総数 11,000,000株
株主数 9,988名

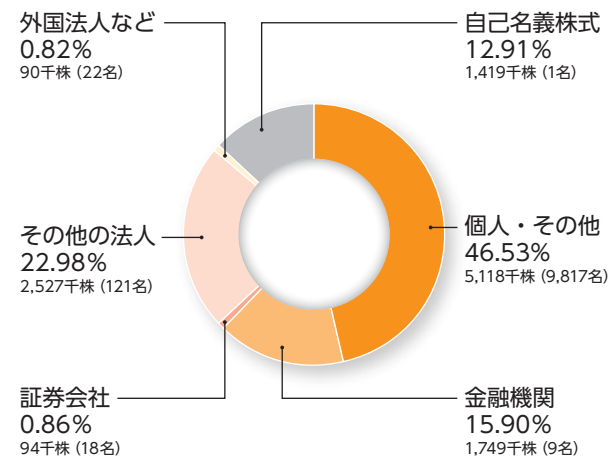
大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
大槻 保人	729	6.63
トーソー取引先持株会	491	4.46
株式会社みずほ銀行	458	4.16
トーソー社員持株会	447	4.07
十和運送株式会社	414	3.77
株式会社三菱UFJ銀行	338	3.07
第一生命保険株式会社	222	2.01
株式会社きらぼし銀行	216	1.97
株式会社常陽銀行	215	1.95
みずほ信託銀行株式会社	200	1.81

(注1) 持株数は千株未満を、持株比率は小数点第2位未満をそれぞれ切り捨てて表示しております。

(注2) 当社は自己株式1,419千株を保有しております。

所有者別分布状況(株式数)



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月末日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
単元株式数	100株
上場取引所	東京証券取引所市場第二部
公告方法	電子公告 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する。
ホームページアドレス	https://www.toso.co.jp
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
同連絡先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-288-324（フリーダイヤル） 取次事務はみずほ信託銀行株式会社（トラストラウンジを除く）、株式会社みずほ銀行、みずほ証券株式会社（カスタマープラザを除く）の各本店でおこなっています。

特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
同連絡先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 0120-782-031（フリーダイヤル）

表紙の写真について

当社人気のカーテンレール「グレイスフィード19」の事例写真です。当社コーポレートメッセージ「窓辺をかえる、明日が変わる。」のイメージフォトとして採用しています。

スタイリングコンセプト：質感の異なる白素材の表情を繊細にコーディネート。洗練された大人のくつろぎの時間が流れるような空間を演出。

コーポレートメッセージ
掲載サイトはこちら



住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人であるみずほ信託銀行株式会社にお申出ください。

「配当金計算書」について

配当金お支払いの際にご送付しています「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねています。確定申告をおこなう際には、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にておこなわれます。確定申告をおこなう際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いいたします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受け取りの株主様につきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいています。確定申告をされる株主様は大切に保管してください。

トソー株式会社

〒104-0033 東京都中央区新川一丁目4番9号

<https://www.toso.co.jp>

証券コード：5956



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。